

製品名: PKM2 (1W18) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe16219**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IF-P
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.36mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,IF-P 1:100-1:200
分子量	58kDa

抗原情報

遺伝子名	PKM
別名	CTHBP; Cytosolic thyroid hormone binding protein; KP YM; OIP 3; Oip3; OIP3; OPA interacting protein 3; p58; PK Muscle type; muscle type; PK2; Pk3; PKM;
遺伝子 ID	5315.0
SwissProt ID	P14618
免疫原	ヒト PKM の合成ペプチド

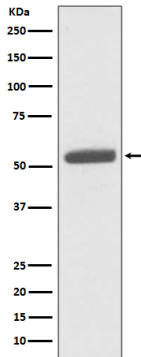
背景

ピルビン酸キナーゼは、ホスホエノールピルビン酸からピルビン酸への変換を触媒する解糖酵素です。PKM2は、腫瘍における好気性解糖（ワールブルグ効果として知られる）に必須であることが示されています。ホスホエノールピルビン酸（PEP）からADPへのリン酸基の転移を触媒し、ATPを生成する解糖酵素です（PubMed:15996096, PubMed:1854723）。高活性の四量体型とほぼ不活性の二量体型の比率によって、グルコース炭素が生合成プロセスに送られるか、解糖系ATP産生に利用されるかが決まります（PubMed:15996096, PubMed:1854723）。2つの形態間の遷移は解糖系制御に寄与し、腫瘍細胞の増殖と生存に重要である（PubMed:15996096, PubMed:1854723）。解糖系における役割に加え、転写も制御する（PubMed:18191611, PubMed:21620138）。POU5F1を介した転写活性化を刺激する（PubMed:18191611）。ARNTL/BMAL1欠損マクロファージにおいて、STAT1依存的に免疫チェックポイントタンパク質CD274の発現を促進する（類似性による）。ピルビン酸キナーゼ活性とは独立して、一部のmRNAの翻訳制御因子としても作用する。小胞体関連リボソームのサブプールと会合し、小胞体で翻訳されるmRNAに直接結合し、これらの小胞体向けmRNAの翻訳を促進する（類似性による）。腫瘍細胞のカスパーゼ非依存性細胞死において一般的な役割を果たす（PubMed:17308100）。

研究分野

シグナル伝達

画像データ



HeLa 細胞溶解物中の PKM2 発現のウェスタン ブロット分析。